

セッション I-1、I-2

中 田 嘉 久

当セッションでは、下記の発表がなされた。

I-1 ボーリング仮設

論文 No.	口頭発表者	所 属 所	地区名	題 目
1	林田 幸利	梶谷エンジニア㈱	関 西	海上ボーリング足場としての自己昇降式作業台船の製作と使用例
2	横峯 光昭	応用地質㈱	関 東	海上ボーリング足場檣について
3	寺井 敏明	復建調査設計㈱	九 州	海上ボーリング用3脚セップの開発
4	小坂 保雄	中央開発㈱	関 東	傾動自在型試錐工法による海上調査の一例
5	小川 和広	基礎地盤コンサルタンツ㈱	関 東	モノレールによる搬入工法について

I-2 ボーリング技術及びサンプリング

論文 No.	口頭発表者	所 属 所	地区名	題 目
6	渡部 求	基礎地盤コンサルタンツ㈱	関 東	大深度オールコア・ボーリング～深度350m東京下町低地での経験より～
7	東岡 耕嗣	応用地質㈱	関 東	新しい掘削流体について
8	隈元 巖	中央開発㈱	関 東	ジェット・フォーム工法（気泡）による風化岩等のサンプリング技術
9	貝羽 哲郎	応用地質㈱	九 州	三重管式サンプラーによる各種軟岩のサンプリング
10	千葉 隆	基礎地盤コンサルタンツ㈱	北海道	サンプリング技術

本稿では、発表論文の傾向や質疑・討論の様相及び感想等について述べさせていただくことにする。

本セッションの論文は、ボーリング仮設に関するもの5編（論文No.1～5）、ボーリング技術及びサンプリングに関するもの5編（論文No.6～10）の計10編の発表で構成されている。〔1〕～〔5〕に共通するテーマは、自然条件の厳しい大水深の海上や山岳地での仮設についてであった。〔1〕、〔2〕はセップ、〔3〕、〔4〕は1脚の円筒檣、〔5〕は山岳地でのモノレール仮設について各社独自の工夫を施し、施工性・安全性及び経済性を追及したものであった。

〔6〕は大深度オールコアボーリング、〔7〕、〔8〕は掘削流体、〔9〕、〔10〕はサンプリング技術あるいはその経験談と非常に興味深いものであった。

近年、日本経済の発展と建設会社の要請による新しい領域として、海洋・地下空間の調査や仮設の困難な山岳調査が多く、安全でかつ経済性を考えた仮設工法が必要となり、また正確な情報を得るために試料を確実に採取し、各種検層・試験測定のために孔壁を良好な状態に保持することが要求されている。今回の論文内容はまさに期を得たものであり、原位試験や室内試験分野でも多数の新しい手法が考案されてきており、これらの開発や研究の必要性はこれからもますます期待される。

内容は、それぞれ多くのスライドを使った興味のあるものであったが、半数の発表者が時間不足で要領よくまとめられていなかったのが残念であった。また、質疑・討論がそれほど活発でないように感じた。多くの技術者との有意義な意見交換ができる数少ない場があるので、次回はぜひ活発な討論となるよう期待したい。なお、第1回目の技術発表会でありましたが、10編中4編が実際現場を担当する調査技士の方の発表であり、現場の生の声を聞くことができ大変興味深いものでした。

最後になりましたが、現場の生の声を聞く機会はあまり無いので、次回の技術発表会では現場技術者の方により多く発表していただくことを期待し、また、「技術フォーラム」の御盛会と会員の皆様方のますますの御発展をお祈り申しあげ、技術フォーラムの概要報告とさせていただきます。

(基礎地盤コンサルタンツ株式会社)

